

北見市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

北見市は北海道の東部に位置するオホーツク圏最大の都市である。地域の公共交通は鉄道(JR)、路線バス、タクシーであるが、特に市民の移動手段となる路線バスは社会情勢の変化に伴い、年々利用者数が減少傾向にある。しかしながら、公共交通は日常生活の中で、重要な役割を担っており、超高齢社会を迎える本市での必要性はより一層高まってくる事が推測される。このことから、持続可能な公共交通の体制を構築することを目標に掲げ、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせることによって生活交通ネットワークの構築を進めていく。

生活交通確保維持改善計画の目標

- 夕陽ヶ丘線(小泉8号-西8号-小泉8号)
令和元年度の実績である1日あたりの乗車人数449人の維持をめざす。
- 川東・若松地域コミュニティバス線
令和元年度の実績である1日あたりの乗車人数34人の維持を目指す。

令和4年度事業概要

- 夕陽ヶ丘線(循環線:小泉8号-西8号-小泉8号)
・運行日数 363日・運行回数 平日及び土日祝日14回/日 計5,075回 ・運賃 市内均一210円(片道)
小泉8号を起点・終点とする循環線である。運行経路には、大型商業施設、医療施設、大学、高校など、市内主要施設を循環する路線として運行している。
- 川東・若松地域コミュニティバス線(北見-川東・若松-北見)
・運行日 363日 ・運行回数 平日9回(往復)、休日8回(往復) 計3,145回 ・運賃 路線バス区間均一210円(片道) デマンド区間420円(片道)
北見バスターミナルを起点・終点とする路線バス区間とデマンドバス区間による運行を行っている。若松大橋から川東住宅街を廻り、北見老人ホームまでを路線バス区間とし、北見老人ホームから川東郊外及び若松地域を予約制のデマンドバス区間として運行している。

地域公共交通の現況

- ・JR石北本線(北見駅、他9駅)
- ・北海道北見バス(株)(25路線)、
網走バス(株)(2路線)、市営バス(2路線)
- ・スクールバス(13路線)
- ・タクシー(市内4事業者)

協議会開催状況

- 令和4年6月3日 令和4年度第1回会議 開催
 - ・令和5年度地域公共交通確保維持改善事業申請について
 - ・市営バスの減免について
 - ・令和4年度公共交通利用促進策(案)について
- 令和4年10月20日 令和4年度第2回会議 開催
 - ・北陽線の一部経路変更について
 - ・路線バスの経路変更等について(常呂線・北陽線・端野線)
- 令和5年1月16日 令和4年度第3回会議 開催
 - ・令和4年度地域公共交通確保維持事業の評価について

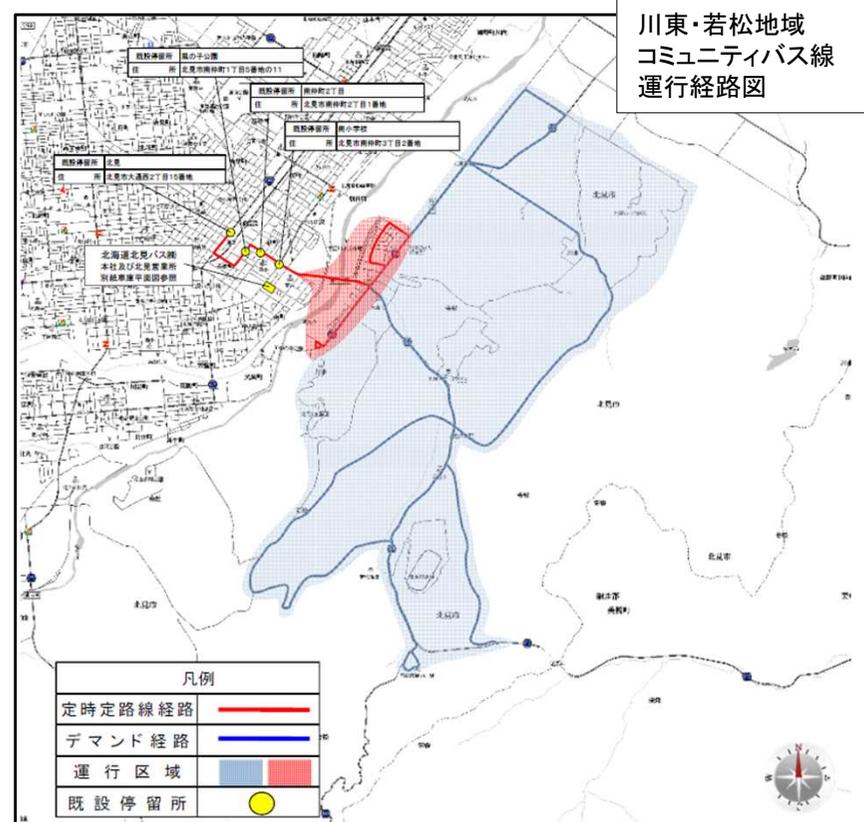
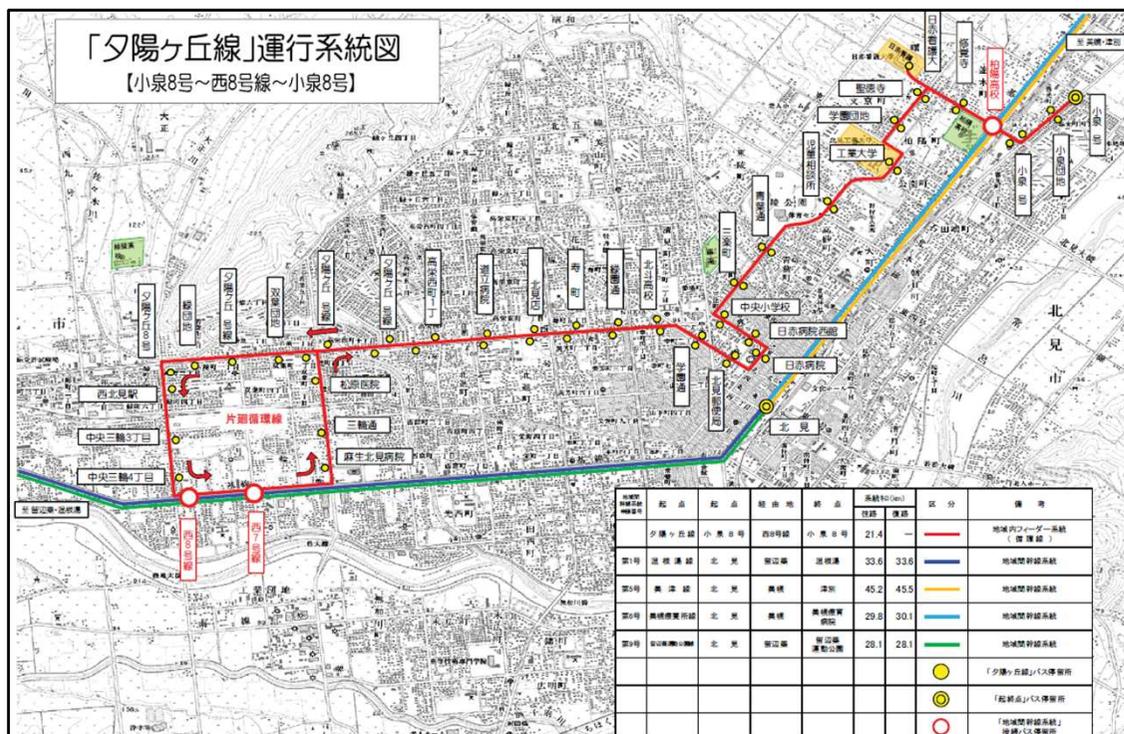
令和4年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

【夕陽ヶ丘線、川東・若松地域コミュニティバス線】

- ・市内公共交通機関の利用促進リーフレットを作成し、転入手続きの窓口で配布した。
- ・公共交通を使うメリットを紹介したニュースレター「きたみ交通だより」を発行し、市内全戸に配布した。
- ・バス通学のきっかけづくりとして、市内高校生に路線バスICカード(3,000円相当)を配布した。
- ・「たんの太陽まつり」にて子ども向けの利用促進策を実施した。
- ・市内小学校と連携し、実際のバス車両を使った乗車体験をするなど、バスの乗り方教室を実施した。

2) 運行系統



3) 利用実績

令和4年度夕陽ヶ丘線バス利用者数月別実績（前年度との比較）

単位：人



令和4年度川東・若松地区バス利用者数月別実績（前年度との比較）

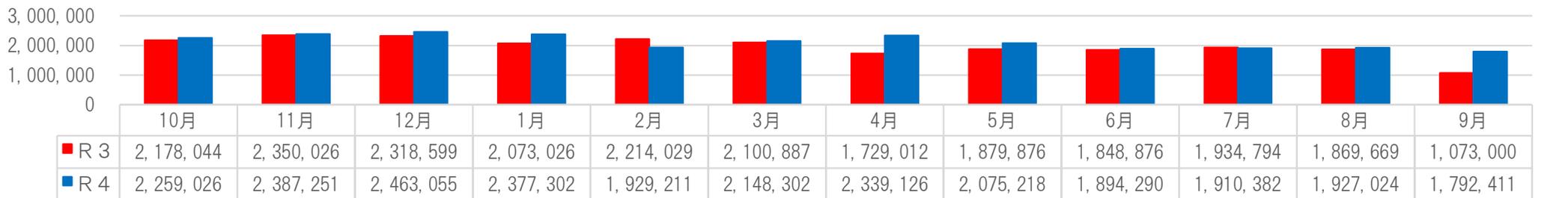
単位：人



4) 収入実績

令和4年度夕陽ヶ丘線バス収入月別実績（前年度との比較）

単位：円



令和4年度川東・若松地区バス収入月別実績（前年度との比較）

単位：円



5) 事業実施の適切性

○夕陽ヶ丘線

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

○川東・若松地域コミュニティバス線

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

○夕陽ヶ丘線

計画に基づき、引き続き効果的な取組を実施する。

○川東・若松地域コミュニティバス線

運行ダイヤや経路等に再考の余地があるか、専門家の意見を踏まえて検討する。

6) 目標・効果達成状況

○夕陽ヶ丘線

利用目標449人/日に対し、実績は452人/日と目標に達することができた。新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた利用が回復してきたと考えられる。

○川東・若松地域コミュニティバス線

利用目標34人/日に対し、実績は23人/日と、目標に達することができなかった。高齢者の利用が主なことから新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として利用控えが続いている状況であるが、昨年度から徐々に回復傾向にある。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施された。
- 新型コロナウイルス感染症の影響が依然としてあるものの、夕陽ヶ丘線については目標を達成することが出来た。引き続き、市内小学校と連携したバスの乗り方教室を実施するなど、更なる利用促進につながる取組を期待する。
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。